

### C-3 肩回り及び袖つけのための採寸製図の一提案

戸枝女短大 香取智恵子

— ラグランスリーブについて —

目的 従来採寸からバスト、背丈、肩中を主として製図する場合に、特に肩の個人差例えはいかり肩、なで肩、前肩等々の差異により仮縫いの補正量はかなり大きなものとなり、その修正方法も一定しない。特に肥満体や高バストの体形では、従来の製図裁断では修正が困難となる場合がある。又肩上の縫合線の位置が正しい稜線を走らず、前後へずれることにより美観をそこねる。これらの欠点を解消し、仮縫いの補正を最少に抑え、且つ縫合線を正しく肩の稜線にそつて走らせるための採寸の方法を調査した。

方法  $l$  の寸法を体形に合わせて決めるには、 $P_f \cdot Q$  間の寸法をガイレクトに測定する必要がある。胸面、背面の  $P_f$  点、 $P_B$  点は  $N-A$  線にほぼ直交し、肩先位置  $Q$  点を通る線を延長して中心線と交る点で  $T \cdot P_f$  ( $T \cdot P_B$ ) はそれぞれ  $20\text{cm}$  を仮定して採寸することにより、この必要寸法を得ることができる。

結果 従来方法では特に肥満体形、高バスト、又は瘠形には肩の縫合線が不安定になる。特にラグランスリーブの場合は、肩線の縫合でこれをその都度吸収することは困難で製図上での面倒な修正となる。 $Q \cdot P_f$  ( $P_B$ ) の寸法に準拠して  $T \cdot N \cdot S \cdot Q \cdot A$  で作図した場合は殆ど修正を必要とせず広範囲の体形にフィットさせることが可能となる。腕の運動性を与えるための余裕度をつけ加えてゆけば稜線の前後の問題をいとわず最少の修正量で外観、着心地共満足できる製作が可能である。

